

# 放流クロアワビの漁獲調査

小島 博・森 啓介

前年度に引き続いて、徳島県栽培漁業センター産クロアワビの漁獲調査を実施した。調査は前年と同じ由岐町阿部漁協で、同地先の漁獲クロアワビ、放流員の混獲率、成長などを調べた。

## 1 方 法

昭和60年7月15日から9月20日の間に阿部漁協に水揚げされたクロアワビを8回調査した。調査は8kg詰めにした出荷籠内の総個数と放流時期別放流員数(混獲率)及び年齢別殻長測定について実施された。今年度の調査では、昭和58年秋放流員(20mmサイズ24万個、30mmサイズ1万個)が新たに漁獲対象となった。放流員の放流時期は年輪によって区別した。

## 2 結 果

籠調査結果を表1に示した。調査した籠数は81籠で、総調査員数は3,957個(648kg)であった。56年秋放流員は40個、57年春放流員は59個、57年秋放流員は117個、58年放流員は59個が含まれていた。放流員の混獲率は56年秋、57年春、57年秋、58年秋の各放流群について、それぞれ1.0、1.5、3.0及び15%と推定される。本年度の阿部地先でのクロアワビ漁獲量は15.1トンで、個数に換算すると92,000個となる。混獲率を用いて各放流群の漁獲数を推定すると56年秋放流員920個、57年春放流員1,380個、57年秋放流員2,760個、58年秋放流員1,380個となり、それぞれの回収率は0.9、13.8、6.1及び4.1%となる。

本年度の漁獲クロアワビの年齢組成を表2に示した。昭和56年秋及び昭和57年春放流員は同年齢の貝(昭和55年発生年級群)の13.4%であった。同様に57年秋、58年秋放流員は同年齢員のそれぞれ5.0、9.5%を占めると推定される。

再捕員の放流サイズと満年齢時及び再捕時の殻長を表3に示した。秋放流は満1歳、春放流は1歳半で放流した貝である。

表1 放流クロアワビの混獲調査(阿部漁協)

月 日	調 査		混 獲 率 (%)				放流員合計
	籠数	貝数	56年秋	57年春	57年秋	58年秋	
7月15日	13	667	1.6	3.4	1.5	2.5	9.0
7月24日	14	672	0.7	1.0	5.8	1.8	9.3
8月5日	10	480	0.6	0.8	2.9	0.2	4.5
8月20日	9	450	1.3	0.9	2.4	1.3	5.9
8月26日	10	455	1.1	1.7	2.4	0.9	6.1
9月3日	8	382	1.0	2.1	3.1	0.5	6.7
9月10日	11	551	0.9	0.5	2.5	1.6	5.5
9月20日	6	300	0.3	0.7	2.0	2.7	5.7

表2 漁獲クロアワビの年齢組成

年 齢 (歳)	組 成 (%)
2	15.7
3	59.8
4	18.6
5	4.4
6	1.3
7	0.2

表3 再捕クロアワビの放流時、満年齢時及び再捕時の殻長カッコ内は標準偏差、測定数は57年春放流員は13個、他は各20個 単位mm

放流時期	放流時	満2歳	満3歳	満4歳	再捕時
56年秋	21.3 (±3.4)	45.1 (±7.7)	73.3 (±10.4)	95.3 (±10.2)	111.0 (±9.3)
57年春	33.7 (±2.3)	—	62.4 (±10.3)	88.2 (±8.0)	106.6 (±9.7)
57年秋	25.3 (±4.5)	50.3 (±7.8)	83.7 (±7.8)	—	102.5 (±5.9)
58年秋	27.2 (±4.0)	55.4 (±6.4)	—	—	92.4 (±5.2)

### 3 考 察

本年度の放流貝の主対象は放流から2年9か月から2年11か月経過した57年秋放流貝であった。3歳貝が漁獲の主対象となるのは天然貝と同様な成長を示している。

本年度の漁獲貝の特徴の一つは、57年発生年級群の漁獲数が少なかったことである。そのため、漁獲貝の平均個体重量の上昇、58年放流貝の混獲率の上昇(1.5%、前年57年放流貝の混獲率は0.7%)が現われた。

57年発生群は来年度に漁獲の主対象となるので61年漁期にどう現われるか調査したい。

前年度には、55年生産種苗(56年秋、57年春放流

群)は同一年齢の天然貝を含めた漁獲個数の23.5%を占めたが、本年は13.4%に低下した。このことは、放流貝が回収の容易な水域で生活していることを意味しており、放流場所が水深1m以浅であることの妥当性を示している。また、前年度に得た放流貝の成長と本年度の成長に関する結果を比較すると、成長の優れた放流貝から漁獲されていることが判る。

### 文 献

- 1) 小島博・浜崎晃・宮崎一誠：放流クロアワビの漁獲調査，昭和59年度徳島水試事報，38～39(1986)。